

近世志摩海女の海藻漁の特質

塚本明（三重大学人文学部・日本近世史）

はじめに－海藻と海藻漁の特質－

- ・日本社会特有の海との関わり。その象徴的存在としての海藻。
古来から多様な海藻を利用。世界的には稀れ。海藻利用の「パイオニア」。
- ・海藻の種類による多様性（植生地、採取法、食べ方、味や食感…）。
- ・利用法の多様性（食料、デザート食材、肥料、工業的利用）。
- ・栄養価の高さ（救荒食物ともなる）。「スーパーフード」（カオリ・オコナー）。
- ・乾燥により長期保存、遠隔地間輸送が可能。
- *近世後期の寒天製法の確立と中国向け需要の拡大が大きな画期。「天草バブル」。
（→天草を求めての潜水漁の広域化と定着。明治20年代以降、朝鮮出漁の重要な背景）
- ・江戸時代～明治期と現代とで、生産・消費量が桁違い。
当時の消費の仕方は謎（とりわけ荒布！）。

- ・海女漁の漁獲物のなかで、大きな（時に圧倒的な）比重を占める。
- ・鮑漁のような熟練の技能も、道具・装備も不要。種類・方法により、老人子供でも可能。
→海女漁が地域的に拡大するひとつの条件。
- ・他の魚介類と異なる取り引き形態。大坂商人の先貸し。海藻運搬用の船（他国船）。
- ・志摩のなかでも地域差が大きい（先志摩半島が圧倒的に多い）。
- ・地先漁業（第一種共同漁業権）でも最も非移動的。陸地に近い（時に海上の岩場）。
- *共同体的規制、漁場や漁獲物自体の共有観念の強さ（コモンズ）。私有権が及びにくい。

一、志摩の海藻漁の規模－越賀郷蔵文書から－

1、文化3（1806）年「産物積入控」

*越賀村からの天草出荷（船積）高（→別表）。

文化2年12月24日～同3年10月までの9回で、計3万2699貫100匁。

11月には2回で7406貫400匁。合わせて4万105貫500匁（150ト余）。

（現在、全国で年間生産量500ト弱、三重県は10数ト）

同3年12月中に3回で8320貫200匁の天草を3410匁余（53両余）で売却。

*この相場で換算：銀16437匁余＝255両余（約1年間）。総計19847匁、308両余。

※通年の取引き：天草の漁期に限定されず。晒草にして季節を通して出荷。

文化9年、大坂商人鴻池の天草・荒布取引きについての申入れ：

「村々江相頼困置候共、小屋造り等ニいたし代呂物不痛売捌構不障様ニ取斗可申」

2、文久3（1863）年の荒布取引

越賀村の「荒布揚げ高」＝49万7055把。

20把＝1俵（海藻入俵、20～25kg）。49万7055把＝2万5千俵弱。約500トン。

うち27万3762把が大坂行。口銀等雑費込みで193両余。

[参考] 慶応2（1866）年荒布取引き契約：

大坂の荒物屋半兵衛、志摩12か村（答志～浜島）と荒布一手買付の契約。

「御融通金」2000両。*文久3年の相場に鑑み、荒布300万把分＝3000トン?!

3、文久元年（1861）4月の天草寄草

台風高浪「天草大寄ニ而村中拾ひ」。浜島から布施田に掛けて流れ寄る。5か村で直組。
「赤草」4812貫目（約18ト）、「晒草」108貫目（0.4ト）
赤草1貫匁当たり6匁5分、晒草7匁5分で取り引き（前年から藩国産仕法で下値）。
合計銀31貫37匁余（483両余）。

*赤草と晒草の価格差小。赤草も乾燥済み。

越賀村の村勢（享保11〔1726〕年「村指出帳」）

村高470,2石。年貢米計176石余。

延享2（1745）年：戸数154、710人。明治13（1880）年：257戸、1473人。

〔参考〕明治21（1888）年、越賀村「海陸売上げ高」：10233円中で天草が8373円。

4、明治後期の熊野灘での「磯売り」

海女不在の漁村が磯の漁業権を一年単位で入札に掛ける。

落札者は志摩海女を雇用して経営（海女の募集、送迎）。

明治42（1909）年の磯売り落札高：錦浦では鮑が50円、天草500円。

*総じて天草の漁業権価格が圧倒的に高い。次いで荒布・鹿尾菜。鮑は高くない。

二、志摩の海藻漁（採取法）

①海女が潜水して刈り取る。〔荒布、天草、若布…〕

②舟上や海岸で道具を用いて採取（刈る、曳く、巻き取る）。〔若布、荒布…〕

③岩場で摘み取る。〔鹿尾菜、布海苔〕

④海岸に打ち寄せられた海藻を拾う。〔荒布、天草〕

*①、②と④で商品価値に違いはない。採取後の作業（乾燥、選別、不純物除去）次第。

※③や④の場合、漁獲物の所有権はどうなるのか⇒共同体規制、共有の観念。

三、志摩の海藻取り引き

・海藻の買い付け船の来航：大坂、紀州廻船／淡路廻船／尾張廻船（内海船）

「天草船」「荒布船」：海藻ごとに専門に扱う船か（商人との間でも海藻毎取り引き）。

「船が来たから瀬取をした」という表現。上方商人側との契約船か（村主導ではない）。

・浜島に取り引き拠点か（「元船」の停泊）。瀬取船の往来。

・荒布は、志島の「切屋」（刻荒布に加工）に出荷も。

・寒天原料海藻の区分：石花菜（真草）、平草、鬼草…。平草は真草値段の3割減。

・大坂商人との間では村共同体としての取り引き。

近隣村々と共に「直組」交渉。大坂商人の手代が志摩へ出向く。伊勢の商人の介在も。

*瀬取、出荷、商人との契約、先貸しなど、村共同体が対応。

・小前（村役人以外の集団）が所有・管理する荒布。

「小前持之荒布浜辺之屋敷江積置」。

・志摩の魚介取り引きの形態

〔生鮑（生魚類）〕：地元商人が伊勢～熱田宮へ売りに赴く。

〔熨斗鮑〕：志摩で入札に掛け、伊勢の間屋商人が志摩へ来る。

〔海藻〕：上方商人（荒物屋）による買い付け。村々へ前貸しで取り引き。

*近世前期から一手買付（独占）を鳥羽藩に出願。藩、国産仕法の施行も。

※他の魚介類に比し、海藻は漁村側に有利な取り引き形態。

四、志摩漁村の旧慣法ー口銀制についてー

- ・口銀：志摩地域において魚介物の取引時に、売買双方から一定割合（3～10%）を村が徴収し、村の公費に支出。江戸時代は村小入用。近代以降は地方税や祭礼費にも。
- ・明治 17（1884）年以降、志摩地域では旧慣維持のため、口銀制度を成文化。
内務大臣と大蔵大臣に申請し、許可を受ける。
- ・明治 28（1895）年、『大日本水産会報』で口銀制の評価をめぐる議論
新井数馬：漁村経済を維持する良法。不漁時に備え、派手な消費を補う。個々人から徴収する手間を省く。「黒菜の採取期を定め、其期に至れば全村男女挙て之を採取し、現品を取扱の役人に付托し、役人は之を取纏め売却し、先口銀を徴収して次に各自の地租及地方税地租割村税地価割に充て…」
岡松三郎：漁民のみに費用を強いる不条理な法。このままでは漁業の衰退を招く。江戸時代の課税法は、土地税や人頭税と併用。
- ・口銀制の歴史
元文 3（1738）年、下磯（熊野灘）出漁の海女に対して「口前地下へ上り不申ニ付」との理由で、金 1 歩の賦課。「口前」＝口銀。＊確認できる限りでの口銀制度の初出か。
寛保元（1741）年、海女を技能に応じて 3 段階に。
上：銀 15 匁、中：10 匁、下：5 匁。磯手習：免除。
天明 4（1784）年の口銀規定
鯉、鮑、海老、海藻（布海苔、鹿尾菜、荒布）。
布海苔「三百三拾目宛集、内三拾匁掛立」
海鹿（ヒジキ）：「家別ニ取集ル 壺割」
荒布：「式割 売主 五分 買主 本代ニ而式分酒手引」
＊村規模の装備が必要な鯉漁と、磯の海女漁（特に海藻を特別扱い）が対象。
鯉以外の一般魚類は、元々口銀規定なし。18C 段階では、まだ天草は登場しない。
＊口銀制度の重要な基盤は海藻（?!）。
- ・「漁村維持法并期約」（『三重県水産図解』所収。明治前期の記録）
海藻については磯留、口開の規定が一般的。「私ニ採藻スルヲ許サス」。
天草が豊富な和具村・御座村（先志摩）では、村が収穫物をまとめ、大阪商人に販売。
「一人一己ニ販売スルヲ許サザル期約ナリ」。
＊熊野灘では制限なし。「村民自由に採藻」。
（菅島、答志）「若布海苔鹿尾菜荒布布苔等ハ渾テ採藻季節ニ随ヒ磯留メヲ為シ、採期ニ臨ミ口開ケヲナス、…村民ハ各艫シ出船ノ合図ヲ俟ツ、因テ一声螺貝ヲ吹ヤ一同船ヲ漕出シ先キヲ争ヒ採藻場ニ至リ、而テ予メ置タル場所ニ至リ投錨シ採藻ナスモノニテ」
（安楽島）「鹿尾菜ハ従来自由ニ採藻シ来リシモ、小学校開設以降都テ一村ノ共有物トシ学校費ニ供ス」＊近代以降、ヒジキ漁収益を小学校経費に。
＊磯場の海藻漁の収益を共同体経費に充当。

おわりにー志摩の海藻漁の特質ー

- ・歴史的には、漁村経済の根幹をなす比重を占める。天草需要が大きな要因。
- ・漁獲、流通、収益配分の点で、漁獲物のなかで海藻は最も共同体的規制が強い。
- ・19C 以降の天草の特殊な位置（「天草バブル」）。

【メモ】

海藻漁の特質

- ・海岸近くの磯場漁業。コモنزの海。
「生産」のための労働投下はない。
- ・漁船や釣り網漁業に比し、特段の道具・装備はない（設備投資の必要なし）。
- ・アワビ漁に比し、熟練の技は不要。老若男女が労働参加。
（江戸後期、海女漁が全国に拡散していく一因）
- ・採取方法：海中で刈る／岩場で搔く／流れ寄ったものを拾う。
- ・利用法：食料一般（救荒食物）、甘味デザート（テングサ）、肥料（ホンダワラ、他）、
工業製品（糊料：フノリ、ヨード：カジメ、アラメ）

海中テングサの写真

テングサを干している様子

寒天の写真

越賀郷蔵

濟州島のアラメ干し

釜山のワカメ干し

越賀あずり浜

海藻流れ寄り草

波切灯台下の海藻採り

伊豆？岩場の海藻搔き？

水産図解 or 図説の岩での海藻漁の図
村規定の記載

水産図解の舟からの海藻刈り取り図

水産図解の海藻の絵

先志摩半島地図